

文化遺産総合活用推進事業 実施報告

1 都道府県・市区町村名	広島県廿日市市	2 補助事業の種類	世界文化遺産活性化
3 実施計画の名称	世界遺産「厳島神社」を活用した地域活性化プロジェクト		
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
5 過去の補助事業実績			
平成23年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業	—		
平成24年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業	—		
平成25年度文化遺産を活かした地域活性化事業	0千円		
平成26年度文化遺産を活かした地域活性化事業	0千円		
平成27年度文化遺産を活かした地域活性化事業	1,488千円		
平成28年度文化遺産を活かした地域活性化事業	2,342千円		
6 計画の実施状況（概要）			
※平成29年度までに実施した計画の実施状況を記載してください。			
【平成27年度（文化遺産を活かした地域活性化事業）】			
●シンポジウム「厳島神社その魅力と課題～外国からの視点も交えて」の開催 日時：平成28年3月6日（日） 会場：宮島ホテルまこと 出演者：秋山伸隆（県立広島大学教授、宮島学センター長）、福田道憲（厳島神社禰宜）、パトリック・ハーラン（東京工芸大学講師）、吉田真（タレント、「富岡製糸場大使」） 参加者：260人			
【平成28年度（文化遺産を活かした地域活性化事業）】			
●ウェブサイト「歴史と文化の厳島神社」の制作 閲覧数：9,000PV（平成29年3月31日現在） ●シンポジウム「厳島神社と日本-文化と歴史を巡って」の開催 日時：平成29年3月24日（金） 会場：廿日市市中央市民センター 出演者：井上章一（国際日本文化研究センター教授）、秋山伸隆（県立広島大学教授、宮島学センター長）、福田道憲（厳島神社禰宜）、アレックス・カー（日本文化研究家）、柴田英紀（文化庁文化審議会 文化政策部委員） 参加者：200人			
【平成29年度（文化遺産総合活用推進事業）】			
●スマートフォンアプリ「世界遺産 厳島神社 The World Heritage of ITSUKUSHIMA」の制作 ダウンロード数：15件（平成30年3月31日現在） ●シンポジウム「厳島神社と日本文化の源流」の開催 日時：平成30年3月27日（火）13:30～15:30 会場：はつかいち文化ホールさくらびあ 出演者：中西進（国文学者）、福田道憲（厳島神社禰宜）、秋山伸隆（県立広島大学人間文化学部教授）、柴田英紀（文化庁文化審議会文化政策部委員） 参加者：280人			
7 定量的な目標に対する計画の進捗状況			別紙①②のとおり
※平成29年度までの進捗状況について、実施計画で設定した指標に基づき、状況値と目標に対する達成率を記載してください。（指標・目標値を複数設定している場合は、全て記載）。			
8 効果等の検証・分析結果			
※上記7の進捗に対する検証・分析結果を記載し、併せて定量的な効果を具体的に記載してください。			
【平成27年度（文化遺産を活かした地域活性化事業）】			
●シンポジウム「厳島神社、その魅力と課題～外国からの視点も交えて」 参加者：250人の定員に対し600人を超える申込があり、この種のシンポジウムとしては非常に大きな反響があった。（目標：250人、実績：600人、達成率：240%） 理解度：質疑応答では、厳島神社の成立年代や建築様式に絡む歴史の問題、外国人へのおもてなしと理解の促進などについて、様々な疑問や意見が出され、パネラーと活発な議論が行われた。 活用状況：パネラーの秋山伸隆氏の教え子である県立広島大学宮島学センターの学生が11名参加し、シンポジウムの運営に携わるとともに、終了後も宮島にまつわる議論を深めていた。			
【平成28年度（文化遺産を活かした地域活性化事業）】			
●ウェブサイト「歴史と文化の厳島神社」 活用状況：閲覧数が9,000PVに達し、厳島神社への理解を深める一助となった。（目標：10,000PV、実績：9,000PV、達成率：90%） 平成28年宮島観光客数：559万8千人（目標：493万人、実績：559万8千人、達成率：114%） ●シンポジウム「厳島神社と日本-文化と歴史を巡って」 参加者：宮島島外での平日開催にも関わらず、200人定員に対し220人を超える申込があった。（目標：200人、実績：220人、達成率：110%） 理解度：アンケートでは関心・理解が「とても深まった」「深まった」とする回答が80%を超えた。また、コメントでも「勉強になった」「有意義だった」「興味深かった」など、文化財に対する理解が深まったとする意見が多かった。（目標：80%、実績：80%、達成率：100%） 活用状況：景観の問題など、海外の有識者の講演を聞き知見を得ることで、国内の人とは違った角度からの視点、価値観を学ぶことができ、参加者の景観保全に対する理解が進んだ。			
【平成29年度（文化遺産総合活用推進事業）】			
●スマートフォンアプリ「世界遺産 厳島神社 The World Heritage of ITSUKUSHIMA」 活用状況：平成30年3月の公開となりアプリダウンロード数（利用者数）は15件に留まっているが、今後の普及・啓発により目標達成を目指す。（平成33年度目標（利用者数）：5,000件、実績：15件、達成率：0.3%） ●シンポジウム「厳島神社と日本文化の源流」 参加者：280人 理解度：アンケートでは厳島神社への理解が「とても深まった」「深まった」とする回答が85%に達した。また、コメントでも「考えさせられた」「高い意識を持つ必要がある」「もっとこのような機会があるとよい」など、文化財に対する意識高揚、興味喚起につながった。（平成33年度目標（理解度）：85%、実績：85%、達成率：100%） 宮島における文化イベントへの賛同者（企業・団体等）数：6件（平成33年度目標：12件、実績：6件、達成率：50%） 宮島を訪れる外国人観光客数：324,851人（平成33年（暦年）目標：234,000人、実績324,851人、達成率：139%）			

7 定量的な目標に対する計画の進捗状況 別紙

具体的な指標 1 :	宮島を訪れる外国人観光客数（暦年）				関連事業:	事業①、事業②	
目標値 1 :	平成 28 年	179,000 人	⇒	平成 33 年	234,000 人		
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	平成 32 年	平成 33 年	平成 34 年		
324,851 人	人	人	人	人	人		
139%							

